

「地域創生 成功の方程式」はあるのか？ —できる化・見える化・しくみ化—

地域創生の汗かき人・東京農業大学教授
内閣官房シティマネージャー(特別参与)

木村 俊昭

1. 地域創生 成功の方程式はあるのか？

地域創生には成功の方程式はあるのだろうか？地域再生の処方箋はあるのだろうか？全国各地では、人口減少が著しく、高齢化が急速に進む。今、私たちの住むまちでは、課題解決も重要だが、ますます先取り政策の構想とその実現が重要となってきた。実に厳しい諸条件のなかでも、本気、情熱、やる気のあるまちで、私は市民主体の事業構想とその実現をしている。特に、地域創生成功の方程式「五感六育」モデルの推進が有効と考えている。六育とは私の造語であり、人体に五臓六腑が大切なように、まち育て・ひと育てには五感六育(知育・食育・木育・遊育・健育・職育)が重要とするもの。そこで、わがまちには何もないなどと嘆くよりも、まず、すべきことは、五感分析を行い、地域の強み弱みを徹底的に掘り起こし、よく研ぎ、地域ニーズを踏まえた六育事業の展開を行うこと。同時に、まち育てはひと育て、官民対象の求められる地域創生リーダー・プロデューサー人財の養成プログラムの実施が重要なのである。

2. 今こそ、広聴・傾聴・対話を重視！

「できない」を「できる！」に変える、自分たちの力でできるまちおこし、その構想と実現には五感六育事業、人財養成と定着が最重要と考え、国内外で実践中である。日本の地域創生を観るに、現状の批判や悲観よりも、冷静に国と地域の有り様を見つめ、広聴、傾聴、対話しつつ、上から目線の説得展開ではない、全体最適の思考や実学・現場重視の視点を

持ち、納得・理解の行政と民間活力の強化が求められる。「産学官金公民」の連携を強化し、キーパーソンネットワーク図や地域産業連関図を作成のうえ、期限付き(例えば3年間)の地域創生の事業構想とその実現のときと考え、私は東奔西走し、五感六育事業を推進中である。

3. 「五感六育」モデルの展開

「五感六育」のうち、例えば「健育」の展開は、「ダンスうんどう」として、どなたでも参加できる、健康増進の新たな動きとして、全国で展開中である。地域創生の成功の方程式として、必ずや、生き生き元気に過ごしたい皆さんの健康増進の拡大へ効果大と考えている。2016年10月、第1回目の都道府県イキイキ健育ダンスうんどう大会を大田区で開催、2017年1月に長野県佐久市、3回目は東京都中央区で開催する。今後も、東京・地域と交互に開催する。期限は、(3+3+6+6)ヶ月×2回の3年間を目安とし、情報共有、役割分担、出番創出をする。事業構想し、全国モデルを構築、創発することになる。現在、秋田県由利本荘市の木育・遊育事業、山形県東根市の遊育事業、千葉県鋸南町の食育・遊育・職育事業、茨城県行方市の食育・遊育事業、奈良県吉野町の木育・遊育事業などを推進中である。

4. 元気なまちは何が違うのか？

全国各地、海外都市などで「五感六育」事業を実践しただけでは、まだ不十分である。次に、「産学官金公民」の連携によるまちの指標(ものさし)作成と

それに基づく検証が重要となる。例えば、一人当たりの都道府県民所得などの推移、人財養成と定着度、モチベーションを高める評価の仕組み、地域人財のネットワーク化、基幹産業に匹敵する産業文化おこしなどである。笑顔、感動や感謝も数値化できよう。全体最適思考や費用対効果なども欠かせないのである。今こそ、指標を明確にすべきである。

5. 年間120箇所限定の講演・現地 アドバイス時のポイントとは？

もうかれこれ、私は十数年、年間120箇所限定の講演・現地アドバイスをさせていただいているが、その際のポイントを記載したい。ぜひ、今後のまち育て・ひと育てなどの参考にしてほしい。

ポイント1

- ①これから求められる人財とは？
- ②元気なまちの地域創生とは？
- ③キーパーソン図と産業関連図はあるか？
- ④6次産業化の成功事例はあるのか？
- ⑤プレゼンの6ポイントを解く
- ⑥まちの指標(ものさし)とは？
- ⑦「まち育て」「ひと育て」と愛着心
- ⑧これからの議会の役割(議会運営編)
- ⑨行政の重要な役割
- ⑩地域創生リーダー人財塾のプログラムのあり方

ポイント2

- ①『五感六育』の事業構想と実現化
- ②自己分析、まちの五感分析、基幹産業分析
- ③情報共有、役割分担、出番創出、事業構想、事業構築、事業継承
- ④五感六育(知育・食育・木育・遊育・職育・健育)のストーリー作成
- ⑤「Why so ? So what ?」の繰り返し、できる化・見える化・しくみ化
- ⑥期限は3年間(3+3+6+6)ヶ月×2回
- ⑦まちのネットワーク図・キャッチコピーの創り方

- ⑧これからの議会の役割(まち育て・ひと育て編)
- ⑨スーパー公務員とは？
- ⑩地域創生プロデューサー人財とは？
(ポイント3以下は紙面の関係上、省略。)

6. 「地域創生若手リーダー・ プロデューサー人財塾」の創塾

人口減少社会に入り、都市への人口集中が進む一方、地域の過疎化が加速度的に進んでいる。地域経済の疲弊化、ひいては日本の世界での地位の低下も危惧されている。世界の中で比較すれば、日本人一人当たりのホワイトカラーの労働生産性は決して高いとはいえない(OECD参加国34カ国中22位)。人口減少に歯止めがかからない中で、一人当たりの労働生産性の向上が国力減退を防ぐために急務なのである。さらに、グローバル化が進行するなかで、地域資源(ひと、もの、こと)の利活用や、アジアという視点は必要不可欠となってきた。ASEAN諸国との連携強化もますます重要となろう。「グローバル」な視点をもって「ローカル」(地域)の発展に貢献する、かつてはフロニーモスと呼ばれていた、心を研ぐ、イノベーションを起こす人財の養成が急務であり、今こそ、地域にグローバルリーダー候補を育てなければ、21世紀の自立する地域は存在することは実に難しいといえよう。そこで地域創生若手リーダー・プロデューサー人財塾を次のとおり構想中であり、紹介したい。

- ①社会人基礎力の養成(チームで働く力ほか)
- ②コミュニケーション能力の養成(情報の受信・分析ほか)
- ③地域魅力発見のための実践型研修

実施期間は4ヶ月、5月～8月を考えている。塾生の対象範囲は、地域の大学に就学している学生、地元商工業者、主婦、行政職員。対象年齢は20歳以上40歳未満。塾生は20人程度、30人が上限。運営組織は、国、県、市町村を含めた協議会を設立し運営を考えている。諸経費としては、事務局運営費、

教育プログラム作成費、講師費、広報・宣伝費用、宿泊・交通費ほかである。今後、開塾に向け、各所と調整を開始するところである。

7. 今、全国の自治体職員が動きだした！

今、全国の自治体職員がスーパー公務員、まちの黒子役として、次々に動きだした。このようななか、2016年10月15日、山形県全域のオフサイト・ミーティングが発足した。思い起こせば、2009年に第1回山形市オフサイト・ミーティングを立ち上げるに際し、私が基調講演の講師として呼ばれ、すでに7年が過ぎた。これまでの間、山形県35市町村、自治体職員間で少しずつ輪を広げ、自主勉強会の活動を継続してきた成果でもある。当日、私からは行政に大切な、できる化・見える化・しくみ化などのポイントを解説し、会場内の皆さんとの課題解決に向け対話、その後、事例報告やワークショップなどを実施した。現在、山形県内では、それぞれの地域の特徴を踏まえ、諸施策を実践しているが、同様な課題も多々ある。自治体職員においては、ひととひととのネットワークを構築し、相談ができるディスカッション・パートナーを見つけること、地域創生のプロデューサー役になることがますます重要となるのである。2017年8月26日～27日は群馬県渋川市にて全国自治体職員が集い全国大会を開催する。同時に新しい学術学会研究大会(日本地域創生学会)

も開催の予定である。

現在、47都道府県からやる気、本気、情熱ある自治体職員から世話人167名が名乗り出た。各県の世話人が中心となり、手弁当の自主勉強会の拡大フォーラムを順次開催し、都道府県毎に結集しているところである。山形オフサイト・ミーティングであるが、今回は、山形県内はもとより、東北地域を中心に全国各地から約140名が参加のもと、大盛會に山形市にて開催された。今後は、より一層、山形県内の自治体職員間の情報共有の場やネットワーク化などが進むことになる。他県においても輪が広がってきているのって、とても楽しみである。

最後に

地域創生成功の方程式はあるのだろうか？処方箋はあるのだろうか？と思うかも知れない。

必ずあるのである！私は、地域の皆さんが主体となるように、①産業・歴史・文化を掘り起こし、よく研ぎ、世界に発信するキラリと光るまちづくり、②未来を担う子どもたちを愛着心持つよう育むひとづくりを実践してきたところである。一度の人生、真心、怒と志を持ち、皆さんとともに、常に「笑顔、感動と感謝」の「まち育て」、「ひと育て」、「五感六育」事業の構想とその実現をどんどん推進してまいりたいと考えている。ともに「できない」を「できる！」に変えましょう！